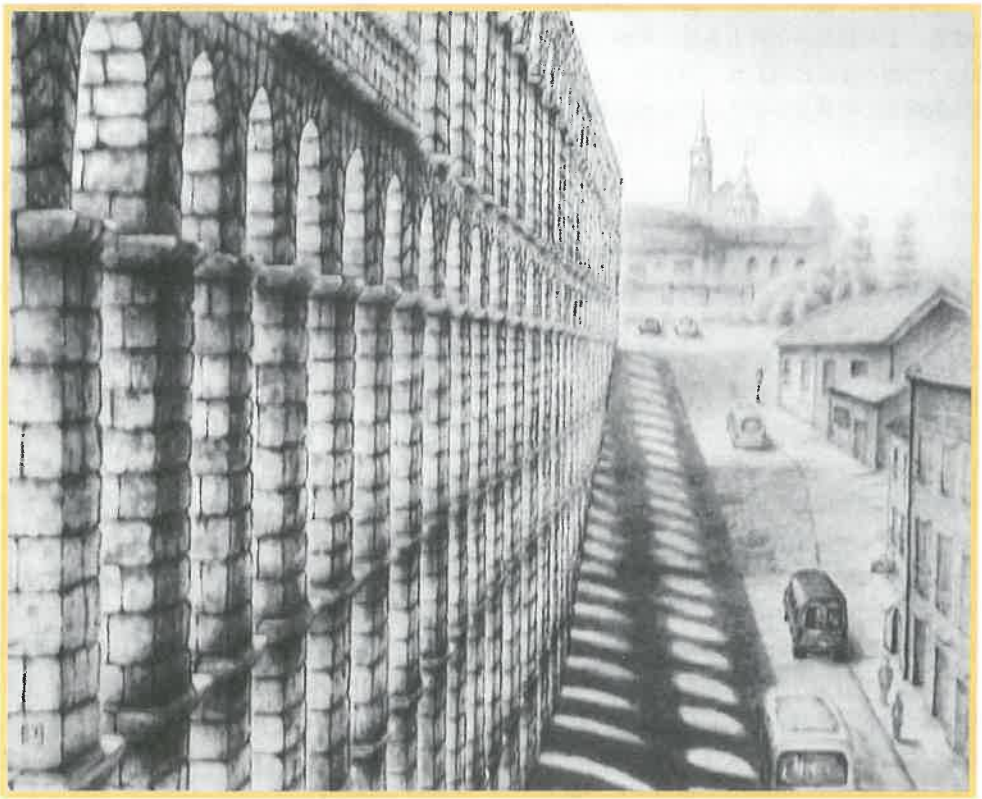
大阪市立大学工学部同窓会報　第20号　　2004年（平成16年）12月1日発行

大阪市立大学
工学部同窓会

同窓会だより

大阪市住吉区杉本 3-3-138
TEL 06(6607) 8 3 7 3
FAX 06(6605) 2 7 6 9
発行人　湊　勝比古



建部　渉　作

《　目　　次　》

表紙絵「真昼の水道橋（スペイン）」……1
湊会長・東名誉会長の挨拶……2
学科の近況・会員短信（機械）……3
〃　（電気）……4
〃　（応化）……5
〃　（建築）……7
〃　（土木）……8
〃　（応物）……9
〃　（情報）……10
〃　（生応化）……11
学科の近況・クラスだより（知的材料）……11
〃　（環境都市）……12
同窓会連合会からのご報告……13
平成16年工学部卒業生名簿……14
平成16年工学研究科修了生名簿……15
平成16年工学部入学生名簿……16
平成16年工学研究科入学生名簿……17
工学部同窓会事務局年報……18
平成17年評議員会・電話帳・後記……19
平成17年“工学部同窓会の集い”の案内……20

ごあいさつ

会長　湊　勝比古

工学部同窓会員の皆様には益々ご健勝にてご活躍のこととお喜び申し上げます。平素から同窓会活動に多大なご支援、ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、我々が最も気になる我が国経済の動向については、世界経済の回復基調を背景に、輸出の増加や民間設備投資の回復、企業収益の改善、また株価の上昇もあり、世間一般の景気は着実に改善しつつあるように言われています。しかし、一方で、公共投資は依然として減少が続き、特に地方経済の停滞は顕著であり、景気の先行きは見通しの定まらない状況にあるように思います。

そんな経済情勢の中で、我々技術者は大変厳しい状況の中に置かれているように思います。財政状況の悪化を理由に、「金がないからどうしようもない」、「技術者は金もないのに無駄なものばかり作りたがる」、「ハードの時代は終わった」とか、極端な場合は「技術者不要論」まで飛び出すといった始末で、技術者の地位がどんどん低下しているような印象さえ感じられます。

最近、雪印乳業、東京電力、三菱自動車、関西電力などで技術者の倫理やで企業の倫理を問われるような事件が次々と起こっています。企業の今までの論理で問題を隠匿していた事柄が明らかになったものですが、その問題に対する社内での議論の中では技術者はどういう役割を果たしていたのでしょうか？　体面や儲け第一といった会社論理の中で体制に押さえ込まれてしまったのでしょうか？　しかし、問題が明らかになれば企業の倫理は勿論、技術者の倫理が厳しく問われ、マスコミ報道等により激しい技術たたき、技術者たたきが起ってきます。そんなこんなで、技術者は相当手足が縮こまり、益々孤立していっているようにさえ見えます。

こんな時こそ、みんなで技術について、また技術者とはどうあるべきかについて考えてみる必要があるのではないでしょうか。技術者は国を支える極めて重要な財産です。高度成長期を見るまでもなく、我が国は非常に優秀な技術者を輩出してきた国です。日本のような資源のない国では、特に技術者の力が必要であると思います。21世紀においても技術の重要性は増えることはあっても減ることはありません。

我々自身が技術者としての誇り（こころ）を持って、自由な意見をのびのびと交し合い、積極的に仕事に取り組み、「技術全体への不信」の風潮を取り除くことが、我々技術者の責務であり、社会に貢献することになるのではないでしょうか。

（土木・昭和41年卒・㈱大阪港トランスポートシステム取締役社長）

ごあいさつ

名誉会長　東　恒雄

同窓会員のみなさま、元気でお暮らしですか。

今年は、大型台風がいくつも日本列島を直撃し、各地で大きな被害をもたらしました。10月下旬には震度７の地震が新潟中越地方で発生し、10万を超える人々が避難生活を余儀なくされました。全国各地で活躍しておられる同窓会員の方々に、心からお見舞い申し上げます。

1989年11月の「ベルリンの壁」の崩壊が契機でしょうか、世の中が少しずつ旋回しはじめ、最近では、「競争原理の導入」が盛んに叫ばれるようになりました。教育の場である大学もその渦中に取り込まれています。ご存知のように、国立大学は2004年４月より「国立大学法人　○○大学」になりました。それぞれの大学には人件費も含めた運営交付金が国から与えられますが、その額は年々減少していく仕組みになっています。その一方で、高度な研究プログラムや特色ある教育プログラムに対する補助金交付制度が導入され、各大学は特色づくりを余儀なくされました。

公立大学も法人化が進行しています。2005年４月より、東京都立大学はその他の都立２大学１短期大学と統合・再編して「公立大学法人　首都大学東京」として開学し、また、大阪府立大学は府立女子大学、府立看護大学と再編・統合して「公立大学法人　大阪府立大学」として出発します。

わが大阪市立大学も「法人化」の流れには逆らえず、これを機会に大学改革を進める方向で検討を重ねています。2006年４月までには「法人化」が実現するかもしれません。少子化が進む中で、教育、研究の水準向上と特色づくりが急務となっています。

工学部の教育も全国規模で問い直されています。従来はどちらかというと「工学教育（Teaching of Engineering Science）」が学部教育の位置づけでしたが、これが「技術者教育（Capacity Building of Engineers）」に変わりつつあります。1999年に「日本技術者教育認定機構（JABEE）」（第三者機関）が設立され、国際的に同等性のある水準以上の技術者教育を実施している学科（プログラム）をJABEEが審査・認定して、公表することになりました。わが工学部では2004度、機械工学科と土木工学科がJABEE認定を申請し、審査を受けました。2005年度と2006年度に残りの８学科も申請する予定で準備を進めています。

このように、大学を取り巻く状況は大きく変わりつつありますが、同窓会員のみなさまから「市大の工学部、えらい頑張ってるなあ」と喜んでいただけるよう努力を重ねていきたいと考えております。叱咤激励とご支援のほどよろしくお願いいたします。

（大学院工学研究科長兼工学部長・工学研究科教授）

表紙絵作者の略歴

1937年：岡山県生れ。
1962年：大阪市立大学大学院工学研究科修了。
2001年：大阪市立大学工学部教授を定年退職。

表紙絵の原画は、スペインのセルビアの壮大なローマンブリッジを描いた水墨画で、平成16年度泉佐野市民展での「部門最優秀賞」受賞作品。

機械工学科の近況

野邑　奉弘

台風、地震と天変地異に襲われておりますが、卒業生のみなさまにはお変わりなくお過ごしのことと存じます。現在、大学における最大の関心事は、国立大学の法人化の波を受けた市大の法人化問題です。このように、大学もかつてない競争時代を迎えています。また機械工学科では技術者教育認定制度（JABEE）の審査がこの10月に行われ、認可が期待されております。このような激動期の本年４月に、機械工学科教授の東　恒雄先生が工学部長（研究科科長）に選ばれ、果敢に諸問題に対応されて、教職員から多大の信頼を受けておられることをご報告しておきたいと思います。平成14年４月に大学院工学研究科が再編され、機械工学専攻が機械物理系専攻と名称が変わり、前期博士課程（修士課程）の入学定員も30名と大幅に増え、毎年40名近くの学生が入学し、研究に勤しんでいます。一方、後期博士課程（入学定員９名）には毎年数名の学生が入学していますが、大学研究のActivityを強化するには、より多くの方々が後期博士課程に入学していただきたいと願っております。特に、後期博士課程への社会人入学も実施致しておりますので、卒業生の方々にはこの制度を利用して頂きたく、是非ともお問い合わせをお願い致します。

今年度の機械工学科の入学生は32名で、前期博士課程には38名入学しています。明年卒業の前期博士課程の学生は42名で、その内企業などへの就職が38名、公務員１名、後期博士課程への進学予定者が２名、その他１名です。就職分野として、自動車関連、機械製造、電機分野が主で、建設分野にも広がっております。学部機械工学科の卒業予定者は33名で、その内就職が６名で、大学院への進学予定者は24名で、そのほとんどが市大大学院に進学を希望しております。就職の分野は、大学院同様に自動車関連と機械鉄鋼分野に内定しております。就職に関しては、今年度は幾分景気の後押しもあって、上向いているのが実情です。

今年度、機械工学科の脇本辰郎先生が講師に昇進され、若手の研究者として研究と教育に勤しんでおられます。また、東先生は部長の重責を担いながらも、自由液膜流の乱流遷移に関する先導的研究および「小学生向けのスポーツ講演会」開催による流体工学分野の社会啓蒙活動の功績により、日本機械学会流体工学部門より部門賞を受賞されております。

このところ、大阪市の財政事情も芳しくない状態が続いていますが、機械工学科の教員は教育と基礎研究に、そして産学連携へと活動を広めております。

これから寒さも日増しに深まって参りますが、卒業生の皆様におかれましては、ご健康で益々のご発展をされますよう祈願いたしております。

（工学研究科機械物理系専攻及び機械工学科主任教授）

黄綬褒章受賞のご報告

畑　明

大阪市立大学工学部同窓会皆様には何かとご面倒をお掛けしておりまして、厚くお礼申し上げます。

今回はからずも黄綬褒章を頂き、大変光栄の事と思っております。小生、昭和33年の春に大阪市大を卒業後、上京しまして以来46年関東暮らしをしております。元々日立製作所に勤務し、昭和61年に独立し、技術・経営のコンサルタント業をしており、かれこれ18年になります。振り返ってみますと

１、機械保全の中央技能検定委員をほぼ20年にわたり歴任しておりました。機械保全は産業機械において、設備を最良の状態に維持し、効果的に運用する為に必要な技術であります。この分野の発展と技術、技能の確立に大いに貢献したこと。

２、精密製造の分野で、生産管理ならびに精密加工技術の専門を極め高い技術を有している。

３、国内及び海外での技術・経営指導に活躍している。最近ではタイ、ハンガリー、メキシコ、インドネシアなどに出張し、産業振興や人材育成などに活躍している。等々、これらのように、斯界における専門家としての業務精励を表彰されたと思っております。小生、齢69歳でありまして、今後も人材教育の方面にお役に立つべく努力してまいりたいと願っております。このような成果を上げることが出来たのも、家内の内助の功があってからこそと思っております。まことに僭越ですが、この賞は家内の受賞とも思っております。昨年11月13日皇居へ参内して天皇陛下のお言葉を賜りました。以上まことに拙稿でありますがご報告します。

（機械・昭和33年卒・中小企業診断士・技術士　畑事務所）

「こいさん会」

伊藤　博之

工学部機械工学科の東京での同窓会名です。今回は第45回となりました。大変喜ばしい事に昨年秋の褒章・叙勲で我が校の先輩であります畑明氏（Ｓ33年卒）が黄綬褒章を受章されました。これまた大先輩であります金田龍之介氏（Ｓ24年卒）が㈶松尾芸能振興財団演劇部門優秀賞を受賞なされました。お２人のお祝いも兼ねて、５月14日に品川プリンスホテルの小宴会場で大阪市立大から南齋教授をお招きして同窓会を開催しました。当日は24名の参加となりました。この時には畑先輩より20年にわたり国家試験の中央技能検定委員を勤めておられたことを聞き、長年の功績が章に結びついたことを教えられました。金田先輩は長年の演劇活動の中で初の受賞との事でした。私としてはあれだけ色々な役作りをされているのに意外な感がしました。昨年末には第44回を開催しました。坂根正弘（Ｓ38年卒）小松製作所社長と竹中恭二（Ｓ44年卒）富士重工社長の社長就任祝いと久しぶりの同窓会でした。この時には両社長から貴重な講

〔つづく〕

機械工学科

第44回　こいさん会　　於品川プリンスホテル　平成15年10月3日

第45回 こいさん会　於品川プリンスホテル　平成16年5月14日

話も頂きました。この様に「こいさん会」は今後とも活動したいと思っています。東京方面に勤務やお住いになった方ぜひ参加下さい。毎年５月第三金曜日の予定です。第44回、45回の全体写真です。　（機械・昭和41年卒・こいさん会々長）

電気工学科

電気工学科の近況

辻本　浩章

卒業生の皆様には益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。世界のあちこちで不安定状況が益々増加している状況ですが、本学の皆様は益々ご活躍のことと思います。

本年度電気工学科の主任を仰せつかっております辻本と申します。本年は猛暑が続き大変でした。やっと秋めいてきたかと思うと何度かの台風災害、新潟では大地震と多くの災害に見舞われた年でした。同時に大学はご存じのように大きな変換の時期を迎えております。法人化、技術者教育認定制度（JABEE）への対応、定員削減など大きな変革の時代を迎えております。

さて、電気工学科の現状をご報告させて頂きます。近年、電気工学科を長年支えてこられました先生が次々と定年を迎えておられます。昨年度には鈴木先生が定年で退職されました。残念なことですが中川先生が今年１月に急逝されました。志水先生の後任として、會田田人先生が本年４月にＮＨＫから赴任されました。また南先生が10月に教授に昇任されました。電磁気学分野（南、武智）、電気回路学分野（會田、高橋、重田）、光電子工学分野（松下、宮崎）、材料計測工学分野（青笹、草開、田中）、電磁機器工学分野（辻本、村治）の12名で教育研究を進めております。

８月に行われた前期博士課程の入学試験では電子情報系として53名が合格し、うち21名が電気工学講座に配属予定です。

就職に関しては、昨年度より幾分回復の兆しが見られますが、厳しい状況は変わっていないようです。企業の採用方法そのものが少し変わってきたように感じます。

（工学研究科教授兼電気工学科主任教授）

近況報告

梶谷　俊一

月日が経つのは早いもので、卒業してから20年を迎えようとしています。会社では放送機器の製造に携わっており、放送局に納める設備を設計しています。放送業界ではデジタル化の波が押し寄せてきており、2000年にBSがデジタル化され、2003年には東名阪の地上波がデジタル化されました。地方局も2006年までにデジタル化される予定で、当面忙しい日々が続きそうです。

卒業以来ずっと東京での生活が続いているせいか、関西在住の方とは疎遠になってしまい、クラス会といったものに参加したことがありません。我が同期の間で集まりがあるかどうかもわからない状態になっています。

唯一同窓会に近い出来事としては、昨年４月に開催された志水先生の退職記念講演の際に、祝賀パーティーで電子回路研の先輩・後輩の方々にお会いできたことで、とても懐かしかったです。志水先生もお変わりなく新たな専門分野を開拓しようとしていて、益々お元気で驚きでした。残念だったのは同期の連中が欠席で会えなかったことです。また何かの機会に会えることを楽しみにしています。

（電気・昭和60年卒・日本電気㈱）

あるべき特許の姿

豊栖　康司

平成７年に電気修士修了の豊栖康司です。私は大学を出てから地元徳島に帰り、父の経営する豊栖特許事務所に入所し、微力ながら特許関係のお手伝いをさせてもらっております。元々地味な裏方的仕事ではありましたが、昨今の知的財産重視の風潮によって図らずも注目を集めるようになりました。特に産学官の連携による技術移転から始

〔次ページ左段上へつづく〕

まり、大学発のTLOからついには知的財産本部を大学が持つという時代にまでなりました。それだけ日本のものづくりが追いつめられているという危機感の表れなのでしょう。一方では職務発明という難しい問題もクローズアップされ、これまた地元徳島の企業が図らずも全国的に有名となってしまいました。「技術者の地位向上」という位置付けで報道がされてはいますが、一方では地味な研究を真面目にこなしてきた多くの方々の成果を、まるで一人がすべてやったかのように取り込んでしまう姿勢に、果たしてこれで日本の将来が救われるのかという気分にさせられます。今求められるのは、封建的な不公平さよりも、昔ながらの日本的なチームワークで困難な目標を達成するプロジェクトX的な姿勢であり、そのような成果を保護する制度こそが特許のあるべき姿だと信じています。　（電気・平成３年卒・豊栖特許事務所）

近況報告

松永　和也

平成11年に大学院を修了し、会社員生活を始めてはや５年の月日が過ぎました。大学を卒業後２年程は同窓生と会う機会が多かったものの、月日がたつにつれその機会が減り、最近では結婚式だけとなってしまっています。その結婚式も多くの同窓生が結婚してしまった今、残念

〔右段上へつづく〕

ながらほとんど会う機会がなくなってしまいました。

私は現在ＪＲ西日本の姫路新幹線電気区に勤めています。ここは兵庫県西部の山陽新幹線の電気設備を保守する職場です。設備が故障することなく稼働させるために定められた周期で検査し、故障の兆候があれば未然に処置をするという地味な仕事です。しかしひとたび設備故障を発生させてしまうと「信号故障で列車遅れる。５万人に影響」といった形でお客様にご迷惑をかけてしまいます。業務は大半が外注作業となったため、その管理業務が大半を占めます。時には自分よりも経験豊富な人を叱らなければならず、会社に入って最も学んだのは人との接し方だと思います。

他の同窓生の皆さんはいかがお過ごしですか？また会える日を楽しみにしています。

（電気・平成９年卒・ＪＲ西日本㈱）

― 2004年キャンパス交流会スナップ ―

応用化学科の近況

米澤　義朗

酷暑、台風来襲と例年になく厳しかった夏が終わり、秋空に心やすらぐこの頃です。同窓生の皆様におかれましてはいかがお過ごしでしょうか。応用化学科では昨年度教員３名の他大学転出につづいて、平成16年３月に工学研究科長として工学部、工学研究科の運営と発展に貢献されてきた山田文一郎先生が定年退職されました。山田先生の今後の益々のご活躍をお祈りいたします。応用化学科では平成16年４月付の教員３名の採用人事、１名の昇任人事を行い、教員数は現在13名です。採用及び昇任された先生方は次のとおりです。無機工業化学分野：有吉欽吾助手（採用）、有機工業化学分野：畠中康夫教授（採用）、材料化学分野：松本章一教授（昇任）、小畠誠也助教授（採用）。９月に工業物理化学分野の米谷紀嗣講師が１年の海外出張から帰国されました。大変残念なお知らせですが、応用化学科元教授の井本立也先生が４月にお亡くなりになりました。ご冥福をお祈り申し上げます。本年３月の工学部応用化学科卒業生は25名でうち就職７名、大学院進学18名です。工学研究科では、化学生物系専攻前期博士課程修了者35名、応用化学専攻後期

〔右段上へつづく〕

博士課程修了者５名、化学生物系専攻後期博士課程修了者（年限短縮）１名です。学生・院生の就職活動、後期博士課程学生確保につきまして、同窓生各位の一層のご理解、ご協力をよろしくお願い申し上げる次第です。末筆ながら皆様のご活躍と益々のご発展をお祈りいたします。

（工学研究科化学生物系専攻及び応用化学科主任教授）

市大の10年前と今

小畠　誠也

本年４月に応用化学科の助教授として着任いたしました。思い起こせば、市大卒業後10年が過ぎようとしています。学部、修士課程、博士課程でさまざまな先生や先輩、後輩にお世話になりました。博士課程終了後、アメリカ留学の機会にめぐり合い、１年半のアメリカ生活を送ってきました。その後、九州大学で６年半の研究生活をし、運良く市大に戻ってくることができました。10年前の市大とはずいぶんと変わっていることに驚きました。かつて大学院入試勉強中にお世話になった図書館はなくなり、工学部の東側にりっぱな10階建ての学術情報総合センターが設立されて

〔次ページ左段上へつづく〕

います。センター内には、書籍はもちろんのこと、情報処理設備、大会議設備なども整っています。コンピューターを取り入れた授業も学生一人一台で行われています。工学部棟は学生実験室をはじめ研究室の改修が行われ、ずいぶん昔よりは住み心地の良い状態になっています。かつて1、2回生の時に使用していた教養の実験室も大きく生まれ変わり、基礎研究実験棟へと変身しています。現在入学してくる学生にとっては以前よりも恵まれた設備の中、勉学、研究に没頭できることでしょう。また、女性の人数もかなり多くなっています。学年によっては、研究室に1人は女性が配属されるぐらいにまで増えています。男女雇用均等化、女性の社会への貢献の高さから考えてもこれから女性が化学の研究者としてさまざまな場面で社会に大きく貢献できるものと思われます。このように、変貌を遂げている市大へぜひお越し下さい。

(応化・平成3年卒・本学工学研究科化学生物系専攻助教授)

気がつけば…

西川　貴志

就職して10年が経過しました。現在は光触媒に関する研究開発業務に携わっています。昨今、新聞や雑誌紙面で報道されており、ご存じの方も多いと思います。学会や展示会も開催される機会が多くなり、それらに参加する機会も増えてきました。

在学中に市大は小規模な大学との認識を受けていたため、就職後は仕事上で同窓生に会う機会は少ないだろうと思っていました。しかし、最近、学会や展示会などで、在学時の研究室の先輩や後輩、同級生さらには顔見知りであった他研究室の先輩に出会う機会があり、驚いています。さらには、社内に目を向けても、先輩の同窓生が複数名もおられるなど、非常に人よりは多くの同窓生の方々に接して、仕事をする機会に恵まれていると感じています。

さて、ビジネスでは情報及び人のネットワークが重要といわれています。情報のネットワークはIT技術をマスターすることにより得られやすくなりますが、人のネットワークは各人が時間と労力を投入しないと構築が難しいと思われます。

〔右段上へつづく〕

また、商品開発においても個人の力では限界があり、社内外のいろいろな人との関わりによって商品化されることを経験すると、ますます人のネットワークが重要であると考えています。

最近、同窓生の出会が多くなって、これまであまり感じなかった、同窓生のネットワークが習得した知識以外に、在学によって得られた財産ではないかと感じています。

(応化・昭和63年卒・石原産業㈱)

フランスでの新生活

牧村　嘉也

平成16年3月に応用化学専攻後期博士課程を卒業し、6月からフランスのアミアンにあるピカルディー・ジュール・ベルヌ大学固体化学反応研究所（通称LRCS）で無機薄膜材料に関する研究に携わっています。アミアンは、パリから北へ100㎞、急行列車に乗って1時間程度の距離に位置し、世界遺産の「アミアン大聖堂」が有名です。バケーションシーズンにはフランス各地から観光客が訪れる観光名所という側面を持ち合わせていますが、街の雰囲気はフランスの典型的な田舎といった感じです。私のアパートはアミアンの中心部、アミアン大聖堂の真横にあり、窓から見える大聖堂の姿が一番のお気に入りです。パリでは普通に英語が通じるのに対し、アミアンでは全く英語が使えません。こちらに来た当初は買い物をするのも一苦労でした。最近ようやく買い物で簡単なフランス語を使えるようになってきましたが、研究所で共に研究をしているフランス人学生にはかなり助けられています。少しずつここでの生活に慣れていくにつれ、フランスの歴史、芸術、文化などを肌で感じられるようになってきました。フランスの研究には、他のどの国のものとも違うじっくりと熟成された奥深さがあり、こちらの文化に触れながら研究活動に努めたいと思います。

末筆ながら、フランスより大阪市立大学の更なるご発展をお祈りしております。

(応化・平成11年卒・ピカルディー・ジュール・ベルヌ大学博士研究員)

旧岩崎邸の内部の写真（上）と、その庭園からの外観（左）
（建築会東京支部見学会での入江幹事の撮影）

建築学科の近況

西岡　利晃

卒業生の皆様、お元気でご活躍のこととお喜び申し上げます。関西在住の皆様には、６月の同窓会でお会い致しましたが、東京の方は、予定が重なりお招きに応じることが心なくも叶いませんでした。

４月には、建築デザイン分野に熊本大学から横山俊祐氏を助教授としてお迎えしました。住まい手の参画を重視する設計手法の提唱者で、デザイン教育に新風を吹き込まれるものと活躍が期待されます。

建築防災分野の谷池義人教授が、工学部の評議員に選出されました。工学部の将来計画委員会委員長に指名された建築計画分野の杉山茂一教授ともども、法人化等の山積する難問に対処する手腕を買われたものです。

学生の進路は、学部では卒業予定者39（８）。本学大学院進学17（２）他大学３（１）。就職内定４。就職先の内訳は、ゼネコン４、設計コンサルおよびその他各１、未定11（５）。大学院前期博士課程では、卒業予定者19（４）、内定先は設計コンサル７（２）、住宅メーカー５（１）、ゼネコン４（１）、未定２です（いずれも括弧内は女子）。学部卒では、就職者が非常に少なく、昨年の就職浪人を含めますと二桁の未就労者を数え、女子の求人難は、相変わらず改善されておりません。景気の回復基調にあわせ、求人数が急増してきましたが、需要と供給のミスマッチが続いています。同窓生の皆様のご尽力にもしばしばお応えできなかったのではないかと、お詫び致します。今後とも、ご支援のほどよろしくお願いいたします。　（工学研究科教授兼建築学科主任教授）

大阪市立大学建築会東京支部の近況

入江　貴弘

現在、大阪市立大学建築会東京支部の幹事の一人として支部の仕事をお手伝いさせていただいています。毎年１回東京方面にお勤めやお住まいの方、大学の先生方にご参加いただいて東京支部の総会を開催させていただいており、本年度も去る平成16年９月11日に総会を開催させていただきました。総会の当日は例年昼間に建築を中心とした見学会を行っており、今回の見学会は「明治～昭和初期の建築見学を中心とした上野・谷中の散策」と題して朝倉彫塑館、安藤忠雄氏ら設計の国際こども図書館、および重要文化財の旧岩崎邸庭園（Ｐ６写真参照）等を見学しました。

見学会の後は総会および懇親会に移り事務局からの報告、議決、参加いただいた皆様からの近況報告などの順に進み総じて和やかな楽しい雰囲気で会を終えることができました。

毎年の事ながら参加していただいた皆様には大変感謝しております。これからは次回の会の企画を考えていかなければなりませんが、次回も楽しく、より多くの方に参加していただけるような会にしていこうと思っています。

（建築・平成３年卒・㈱長谷工コーポレーション）

卒業してから一体何年経ったかな

萩　　武之

いつだったか、機械科卒の人見氏から同窓会報へ何か書いて呉れとの電話があり、「ＯＫ」と一つ返事をしたのは良かったのだが、すっかり忘れてしまい、十月の初め頃に手紙が舞い込み、〝しまった〟と思ったが後の祭り。いやはや、久々にペンをとり原稿用紙に向ったが、何も書けない。ペンを横に置き、三十一年に卒業してから何年経ったかなと、指折る仕末。随分年をとってしまいました。三十一年は太陽族が生れた年です。鍋底景気といはれた年で自分の思うところへはなかなか就職出来ませんでした。

昭和三十年代は皆でニッカバーに集りハイボールを飲みながら喋ったものです。四十年代に入ると世の中も高度成長時代を迎え大阪では万博が開かれ、三十九年の東京オリンピック以来忙しくなり、一緒に集まる機会も少くなり、いつのまにか、誰が幹事のときからか、集まらなくなり今になっているのではないかと思います。世の中の振興期、高度成長期、安定成長期と卒業してから三十五年程経ち、皆定年を迎える年になった平成三年にバブルがはじけてしまい、建築界もさっぱりになってしまいました。同期の仲間の事が気になるので、調べて見ると、八人が亡くなっていました。残党七人現役で頑張っています。またいつか集りましょう。

（建築・昭和31年卒・萩建築事務所長）

学生時代を振り返って

山内　豊英

皆様こんにちは。現在、私は某ゼネコンの技術研究所という固っ苦しい名前の部署でせこせこと働いております。

現在も仕事の関係上大学に訪問することが多く、まぁ…正直な話、研究室の先生に頼まれましてこの便りを書くはめになりました。

早いもので私も卒業してから６年が過ぎ、ようやく社会人としての生活に慣れました（遅！）。現在の部署には入社２年目に配属され、１年目は現場管理でした。学生時代はろくすっぽ勉強もせず、だらしない生活をしていましたので、１年目はメッタ打ちにされました。朝早くから夜遅くまで一日中汗だくで働き、真っ暗ななか「俺の夢はこれやったんか？」と涙がこぼれないように夜空を見上げたものです（苦）。

学生時代のことはよく思い出します。建築学科には製図という課題があります。今の学生は殆どCADで描いてしまうようですが、我々の時代はほぼ全員手描きでした。製図室に寝泊りしながら、期限ギリギリに提出したものです。大変でしたが、その分学科内の友情は深まりました。今でも、学科の友達とは連絡を取りあい、年中遊びほうけています。そんな友達ができただけでも製図室には感謝しております。

（建築・平成10年卒・㈱浅沼組）

土木工学科の近況

日野　泰雄

卒業生各位には益々ご活躍のことと存じます。昨年に続いて学科主任（都市系専攻主任兼任）を務めさせて頂いています。

早いもので、環境都市工学科の設置に伴うスタッフの変動から５年、昨年度末に小田一紀先生（旧河海工学）が定年退職され、今年度末には高田直俊先生（地盤工学）が退職されます。そして、来年４月からは、「都市基盤工学科」として新たなスタートを切ります。今年は、吉田長裕助手（土木計画学）が講師に昇任しました。また、高田先生の後任など、来年に向けた新たな人事も進めています。

新入生は、学部32名、前期博士課程（都市系）36名（土木分野10名）、後期博士課程（同）６名（同３名）です。卒業生の方々の入学も期待していますので、遠慮なくお問い合わせ下さい。

卒業後の進路については、学部と大学院全体では、公務員と民間と進学がほぼ同数になっていますが、相変わらず、公務員に比べて建設関連等の企業への希望が少なく、進路未定の学生諸君も少なくありません。

河村氏（44年卒）が土木学会デザイン賞2003（連名）を受賞されたという嬉しい知らせが届いています。皆さんからの吉報もお待ちしています。

この原稿提出日に、JABEE（日本技術者教育認定機構）の実地審査を受けます。教員に加え、卒業生の皆さん、学生諸君の面談もあります。さて、どのような認定が下されるか？！　もちろん、その結果にかかわらず、立派なCivil Engineerを育てるためのより良い教育と研究を目指す姿勢は変わりません。また、法人化への対応など、この先取り組まなければならないことが山積みですが、新生「都市基盤工学科」の飛躍を目指すべく決意を新たにしていますので、卒業生各位にも一層のお力添えをお願いします。

（工学研究科都市系専攻及び土木工学科主任教授）

土木学会懇親会

平櫛　督彦

平成16年度の土木学会全国大会が豊田市北部、愛知万博瀬戸会場のすぐ南にある「愛知工業大学」で９月に開催されました。この機会にと、大会に出席される先生方、学生さんたちと名古屋地区の土木会との合同懇親会を行いました。

大会初日の８日に開催となったため、ちょっと遅い時間からの開催となりましたが、皆さんがんばって参加していただきました。先生方12名、学生10名、学会参加のOB９名、名古屋土木会14名の計45名での開催でした。

愛工大の森野先生は学会の実行副委員長をなさっておられたため学会の学生交流会の方に出席され、懇親会は欠席されましたが、大変ご苦労様でございました。

〔右段上へつづく〕

懇親会は名古屋市内の料理自慢のクレストンホテルでS41卒・小野先輩（名古屋土木会会長）の歓迎挨拶で始まり、北田先生の挨拶、乾杯を大同工大の事口先生に頂き、美味しい食事へと進みました。（小生、司会をやってたのでちょっとずつつまみ食いで余計に美味しかった？？）

参加者全員に喋ってもらおうとマイクをどんどん廻しましたが、偏りも若干、でも結構皆さんにぎやかに盛り上がっていました。そんな中、やはりお元気だったのが、元教授の中井先生と園田先生。内田先生にお願いした各教室の紹介でも北田先生を含め参加者の多かった橋梁研が壇上で一番盛り上がっていました。『錦』まで流れられたようで事口先生、大林組の越智さん、前田さんご苦労様でした。特に閉会挨拶の越智さんには担当現場の発表論文と記念の「クオ・カード」を皆さんに配布していただき、ありがとうございました。

最後は「逍遥歌」。名古屋では定番となっている鉄建建設の竹内さんのプロローグから全員で唱和して気持ち良く散会といたしました。　（土木・昭和45年卒・㈱大林組）

土木会・東京支部総会

上林　厚志

城南の聖地を巣立ち、東京近辺に赴任した同窓生が、毎年、土木会東京支部総会に参集しています。開催日は例年11月18日の土木の日です。東京支部総会は昨年で18回目となり、ここ数年は東京駅近くの鉄道会館ルビーホールで開催されています。40名を超えると多少手狭な感じになりますが、東京駅という利便性と夜景の美しい会場ですので今年もこの会場を予約しています。若い方にも多く参加してもらおうと昨年から赤字覚悟で参加費を抑え、一昨年の30名から昨年は40名と出席者の数も増えており、若い人の参加も多くなっています。私のようにこちらに身寄りのないものは仕事関係になく、それでいて仕事のことを理解していただける先輩、同輩、後輩と一時でも話ができる機会は有難いと感じています。

さて、昨年（平成15年）の東京支部総会の雰囲気をすこしお話します。まず、坂口幹事の司会で稲垣紘史東京支部長の

〔Ｐ９左段上へつづく〕

挨拶に続き、高田直俊教授と麓隆之助手に来賓挨拶をお願いし、変化著しい土木工学科の現況、就職状況等の話題を提供していただきました。会場は立食形式ですが、年代を超えた情報交換が出来るよう工夫した結果、若い人も年配の方々と自然に歓談していただくことが出来ました。その後、各グループからの代表の方、スピーチ希望者、海外赴任から帰ってきた方などから近況などを報告して頂きました。当会の目的は「土木技術の向上に寄与し、あわせて会員相互の親睦を図る」ことにあり、スピーチをきっかけにその後の歓談もさらに盛り上がりました。

今年（平成16年）も11月18日に場所も例年どおり鉄道会館ルビーホールで開催予定です。来賓の先生は土木計画学研究室の内田敬助教授、橋梁工学研究室の松村政秀助手にお願いしております。この原稿を目にされる頃にはすでに開催された後かと思いますが、盛況になるように努力する所存です。

（土木・昭和61年卒・㈱竹中工務店）

応用物理学科の近況

中村　勝弘

応用分光計測学分野では、増岡俊夫教授が定年退官され、後任として理化学研究所から熊谷寛教授が着任されました。熊谷先生は、各種レーザー光源開発の世界的第一人者です。数理工学分野では、東京大学に転出された加藤岳生講師の後任として、ドイツのレーゲンスブルク大学より杉田歩講師が着任されました。杉田先生は、量子コンピュータや量子カオスの基礎理論で優れた業績を納めています。光物性工学分野では、金大貴講師が米国フロリダ州立大学で一年間の在外研究をおこなっています。

文科省の21世紀COE公募には、電子情報系教授陣を核にして工学研究科から非線形工学関連のプロジェクトを立ち上げ応募しましたが、「世界的水準の研究実績があり、将来性があるものの具体的な計画がまだ不十分である」（江崎玲於奈審査委員長からの解答）という理由で惜しくも採択されませんでした。他方、JABEEについては、平成17年度の審査に向けて着々と準備をすすめています。

学生の進路については、学部４回生の大多数が本学の電子情報系専攻大学院への進学を内定しています。学部４回生や院生（Ｍ２）の就職希望者はほぼ全員の就職が内定しました。このような良い結果が得られたのは、寺井章助教授のきめ細かい就職指導のおかげです。教員定数や教研費の削減等、激変する環境の中で、応用物理学科の良き伝統を継承させるために、同窓会の皆様の強力な支援をお願いします。

（工学研究科教授兼応用物理学科主任教授）

応物を卒業して40年

吉澤　惇

昭和39年に卒業し、早くも40年が過ぎました。還暦を過ぎ、第一期の人生を終えて、第二の人生に突入しておられる方が大半ではないでしょうか？　同期生の皆様お元気にお過しでしょうか？　久しく同期会を開催しておりません。　突然に執筆依頼が舞い込んで来ました。　何かの行事に合せて同期会を開催しておけばと悔んでおります。　これを契機に同期会の開催に一肌脱いでみる気になりました。　39年卒応物同期生諸君、ご期待下さい。

私は東野研に学び、大東教授の薫陶を受けました。　残念ですが両先生はこの世におられません。健在な折に両先生の「東」を頂き、『東東会』と言う東野研の同窓会を通じて、世の中を我々が背負って立ち、社会を動かしているのだと言う雄々しい・頼母しい諸先輩の荒々しい息使いを感じたことを今、懐かしく思い出されます。

立派な先輩に恵まれ、頼りがいのある後輩に支えられて、60半ばまで過ごせましたことを感謝致しております。

鬼籍に入られました方々のご冥福をお祈りしまして、筆を置きます。

（応物・昭和39年卒）

〔右段上へつづく〕

光陰矢のごとし

法貴　哲夫

同窓生、同期生の皆様いかがお過ごしでしょうか。修士修了から既に30年近く経ちましたことにまさに光陰矢のごとしと感じております。学部では半導体物性の勉強から、修士課程では「これからは生物物理！」とばかり我儘を言ってその分野をかじりましたが、仕事では電気、機械、ソフトなど何でもやらされ、その後は画像処理が大半でした。最近は液晶製造装置関係の責任を負う立場となりました。液晶ディスプレイは日本で生まれ育ちましたが、今では韓国、台湾そして中国へと展開しており、これらの国々を飛び廻る状況となっています。仕事関係では、シャープにおられました先輩で、液晶の権威の西村靖紀様はじめ多くの先輩、同期生の方々にお世話になっています。同期生とは仕事の話しもそこそこに級友の話題に時間を費やすこともございます。

仕事を離れては、最近もっぱら近くの鈴鹿、比良、北山などの山を登るようになりました。若い頃には日本アルプスなども歩き廻りましたが、かつて山に覚えのある仕事仲間とで近い山へ行くようになりました。いずれ再び日本アルプスをとみんなで言っておりますが、足腰を鍛え直すのが間に合うか、年で足腰が利かなくなるのが早いかの競争になりそうです。

（応物・昭和48卒・大日本スクリーン製造㈱FPD機器カンパニー副社長）

応用物理学科

近況報告

金木　正則

今年の夏は大変な酷暑となり、外出するにも一苦労でしたが、一方私の勤務先はエアコンが主力のメーカーであり、嬉しくもありました。最近は仕事の忙しさにかまけて、同期で集まることもめっきり少なくなりました。今回の投稿を機に是非集まりたいと思います。同期のみなさん如何ですか？

私は進んで勉強する方ではありませんでしたが、卒研発表前だけ？は夜遅くまで研究室にこもって実験あるいはレポー

〔右段上へつづく〕

トに取り組んでいたことを思い出します。私達が卒業した年はバブルの前ではありましたが、就職については売り手市場で、ほぼ全員が希望通りの会社に入れたと思います。その後バブルが崩壊し、やっと今、企業業績は全体的にやや上向いているように見えますが、まだまだ厳しい状況が続いていると思います。特に間接業務の効率化については、多くの課題が山積されています。最近更に、成果主義の考え方を、更に徹底している企業が増えています。個人能力を磨き、スキルを向上させることは勿論大切ですが、人との繋がり、チームワークを抜きにしては語れません。これからの時代、もっと人とのネットワーク作りが重要になると思いますので、最後にもう一度、是非同窓会をしましょう。

（応物・昭和61年卒・ダイキン工業㈱）

情報工学科

情報工学科の近況

濱　裕光

同窓会の皆様、いかがお過ごしでしょうか。お元気でご活躍のことと存じます。たまには大学の研究室も訪問して、顔を見せてください。

新行財政改革に伴う人員及び予算の削減、独立行政法人化など、市大を取り巻く状況は大きく変わりつつあります。その中でスタッフの移動がありました。市大に多大の貢献を残されてきた藤原値賀人先生が今春に定年を迎えられ、それに伴って、岡育生先生が情報ネットワーク工学研究室の教授に昇任されました。また、辻岡哲夫先生が情報通信工学研究室の講師に昇任され、上野敦志先生が知識情報工学研究室の講師として着任されました。現在、情報工学科は教員12名体制ですが、一同粉骨砕身、教育・研究に邁進しております。

さて、進路ですが、例年に比べて就職活動のスタートが早くなっています。自由応募が増えるのと反比例して学科推薦の重みが軽くなってきています。専門知識や技術も重要ですが、人物重視の傾向がより強くなってきているように感じました。また、技術系派遣社員の求人も増えてきており、日本の雇用形態が変わりつつあるのかな、と感じている次第です。いろいろと心配なこともありましたが、結果的には、就職希望の６人全員が内定をもらいました。大学院への進学については、16名が合格し、情報工学科創設以来最初の飛び級合格１名を出しました。

最後になりましたが、皆様方の一層のご活躍とご発展をお祈りいたします。

（工学研究科電子情報系専攻及び情報工学科主任教授）

［右の写真］
「新学舎・全学共通教育棟」
本年、旧教養３号館の跡地に完成。
（背後は「基礎教育実験棟」）

近況報告

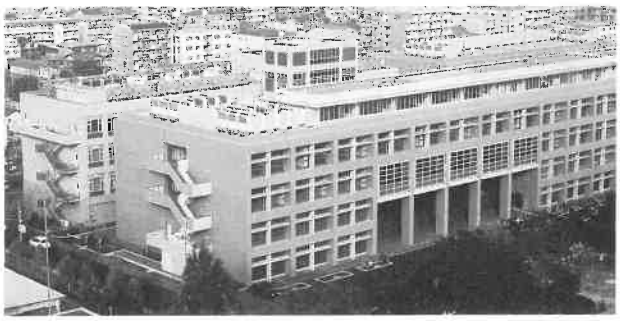
安田　国弘

平成15年３月に前期博士課程を修了し、現在は後期博士課程２回生として、JR阪和線で大阪市大に通学する毎日を送っています。学部や修士時代の同期のメンバーとは、なかなか連絡がとれていないというのが正直な感想です。先日、同級生から結婚の報告のハガキをもらい、出遅れた感じを受けました。また、みんなは社会に出てそれぞれに活躍しているだろうなということを思いながら、自分は学生であることを考えさせられました。

私自身は、情報システム研究室で一番の古株となりました。日常は、修士の時とあまり変わっていませんが、研究を高度なものへと発展させ、世界レベルの成果を挙げたいとの理想と現実の狭間で頭を抱えながら、論文を読みパソコンのモニタに向かう毎日を送っています。また、自分の研究だけでなく後輩たちの研究への協力や研究室の雑務など、多くの事にたずさわり私なりに忙しい毎日です。そして、その中で自分の視野を広げるように努めています。

まだ身分は学生ですが、一社会人の心構えで研究に取り組んでいます。これからも立派な研究者、社会人となるため、学生生活の集大成となる研究成果を残すために、頑張っていきたいと思います。

（情報・平成13年卒・工学研究科電気情報系専攻後博２回生）



生物応用化学科

生物応用化学科の近況

玉垣　誠三

皆様には、ますますお健やかにお過ごしのことと存じます。

さて、最近身近では低減するものが目白押し、給料、人、年金、研究費、そして小遣いまでもで至極不満。嬉しいことに本原稿の字数は600に減った。国家的国民的危機なのが子供数の減少と学生の学力低下であり、だから大学でもその辺に大変気を遣っています。巷ではリストラが一巡し、景気は回復基調だとか、政府や銀行筋が言うことだから本当のことは分かりません。本大学のリストラはこれからが本番です。

ところで、当生物応用化学科は平成２年（1990）に化学の目を通して生物を理解し、生物が生産する物質を役立てようという理念のもとに設立されました。爾来十余年、世界的にバイオテクノロジーが一大体系へと変貌を遂げるとともに、当学科の教育研究も新情報・新人材を取り込み発展的に大きくバイオ分野へと変転しています。このような状況のもと、学科の現状を的確に表現できる学科名称について構成員一同討議を重ね、「バイオ工学科」と変更する決断をいたしました。と申しましても化学を軽視する訳ではありません。従って、平成17年度より「バイオ工学科」名で新入生募集いたします。遅ればせながらのお知らせとなってしまいました。スタッフ一同、自らの殻を破り捨てて変わり、新名称の誇りとする優秀な人材を育成するために一層鋭意努力いたします。ご理解、ご支援のほど切にお願い申し上げます。因に、教員構成は昨年度と変わっていません。就職・進学状況良好。

（工学研究科教授兼生物応用化学科主任教授）

近況報告

古田　康誠

皆様お元気でしょうか？４年前に卒業しました古田です。つい先日、山内先生にご挨拶がてら工場勤務になりましたことを報告し、久しぶりに先生の福井弁（？）を堪能させていただきました。その際に同窓会報への記載依頼がありまして今回書かせていただくことになりました。

入社してから３年と３ヶ月の間営業配属となり「なんで営業なんだ！」と思いながらも、結局楽しくなって気がつけば３年以上も経っていました。ただ、楽しかったとはいえ将来について悩んだ時期もありました。そういった時には同期や後輩と飲み、仕事内容や今後について語り「俺には俺の道があるわい」と納得したものです。

今の工場での仕事は品質管理をしておりますが、商品・原材料・資材の合否チェックや、GMP・ISO14001に沿った基準書の改定などをしております。最近、やはり自分は『ものを売る仕事』よりも『ものを作る仕事』の方が好きなんだなとよく思います。工場でもの作りの基本を身につけ、今後自分が作った商品を世に送り出したく思います。ついつい真面目に書いてしまいましたが、最後に皆様へ、健康に勝る宝物はありません、どうぞ弊社HPをご覧ください。（会社アピールでした）

（生応化・平成11年卒・アサヒフードアンドヘルスケア㈱）

知的材料工学科

知的材料工学科の近況

澤田　吉裕

はじめまして、昨年度後期から市大に勤め、半年目の今年度初めより学科主任の役目が廻ってきました。学科の近況を簡単にご報告します。

量子物性工学分野の金崎順一助教授が９月１日より大阪大学産業科学研究所に助教授として移られました。金崎先生には、本年度の後期も学部学生への講義と実験の指導のため、毎週木曜日に来ていただいています。さらに同分野の近藤孝文助手も10月１日より同研究所（金崎先生とは異なる分野）に特任助手として移られました。現在、両先生の後任補充に取り組んでいます。

当学科では来年度にJABEEへの認定申請を目指して学生への履修指導や、大学教員の講義などの教育能力向上を目的としたFD活動にも全教員が協力して取り組んでいます。大学紛

〔右段上へつづく〕

争で騒がしい時代に学生であった団塊世代の私には、大学教育環境の様変わりを感じます。在学生の未来が明るく輝き、卒業生がこれまで以上に母校を誇れるように、全教員が力を合わせて人材育成と研究に励む所存ですので、実社会でご活躍中の卒業生各位から市大における教育や研究に関する忌憚のない評価などをお聞かせいただければ、真にありがたく存じます。　（工学研究科教授兼知的材料工学科主任教授）

『エコランに参加して』

中谷　隼人

知的材料工学科の２期生として今年の春に卒業し、改めて大学院生として日々研究に励むと同時に、機械工学科出身の仲間と共にサークル活動として『本田宗一郎杯HONDAエコノパワー燃費競技全国大会』に参加しています。

エコランと呼ばれるそれは「１リット

〔Ｐ12左段上へつづく〕

ルのガソリンでどこまで走れるか」をコンセプトとし、自作した車体に規定のエンジン（改造は自由）を載せてサーキットを規定数周回し、消費した燃料から計算される燃費を競う大会です。先輩方の代から数えて今年で３回目の参加となり、今回からはメンバーも一新し、ニューマシンも投入しました。

10月３日に行われる決勝に向け、寝る時間（と研究する時間？）も惜しみながら製作したマシンは大会前日にギリギリ間に合い、サーキットでもメカニカルなトラブルが多発する中、奇跡でも起きたのか、完走することが出来ました。

結果順位はここで披露できるようなものではないですが、モノ作りの楽しさを改めて感じたことや、すばらしい仲間と出会い、それぞれの専門知識を交換し合えたことが何よりの収穫であり、今回の完走を通して士気の上がった仲間と共に

〔右段へつづく〕

参加する来年の大会に期待しています。

（知材・平成16年卒・工学研究科機械物理系専攻前博１回生）

環境都市工学科の近況

赤﨑　弘平

2004年３月に本学科第２期生18名が卒業、うち10名が本学大学院に進学、１名は大阪府に、７名が民間企業に就職しました。卒業式に併せて「優秀学生賞」に、梶原美里・寺岸克倫両君を選び、賞状と“クリスタル置時計”を贈りました。また、３月末日をもって小田一紀教授が定年退職されました。先生は４月より名誉教授に、加えてキャンパス内の「大阪市立大学インキュベータ」において、これまでのご研究を新技術開発へと発展させるための新たな取り組みに挑戦しておられます。

４月には25名の第６期新入生を迎えました。人事も一新、地域環境計画分野に㈱総合設備コンサルタント常務取締役を勤めておられた中尾正喜氏（55歳）を教授として迎えたのに加え、環境水域工学分野では矢持進助教授が教授に、重松孝昌講師が助教授に昇任、また㈶電力中央研究所流体科学部主任研究官を勤めておられた森信人氏（35歳）を講師として迎えました。本学科も創設以来６年目に入って各分野とも、気持ちも新たに歩みを始めました。

さて、１期生卒業と同時に発足した本学科同窓会の「第１回総会・懇親会」が９月24日夕刻より母校・Ｇ棟201教室にて開催され、１期卒業生はもとより、多くの現役学部生・院生が集い、賑やかに楽しい時を過ごしました。創設して間もない本学科ですが、同窓会も年を重ねるごとに実のある活動が大きく広がることを望んでいます。

（工学研究科教授兼環境都市工学科主任教授）

環境都市工学科２期生の学生生活

西江　幸久

２期生は、新学科「環境都市工学科」での出発の余韻を残しながらも、落ち着きある雰囲気の中で４年間を過ごせ、晴れて卒業することが出来ました。もうひとつ喜ばしいことに、２期生全員の就職・進学が卒業時に決定していたという快進撃を展開することが出来ました。これらはひとえに、学科の先生方や１期生の先輩方をはじめ、多くの皆様のご尽力によるものでして、２期生を代表しこの場を借りて深く御礼申し上げます。

さて、４年間を振り返ってみますと、やはり２期生全員がひとつ屋根の下で過ごせる専用の演習室が割り当てられた３回生の思い出が脳裏に蘇ってきます。大学内に自分達の居場所が出来、今まで授業でバラバラだった仲間とも、共に集う時間が多くなりました。２期生は、個性豊かな人が多く、演習室での生活では終始笑いの絶えない明るい雰囲気が印象的でした。４回生に入ると研究室ごとに分かれてしまい交流も減ってしまった為、卒業後の２期生同志の絆は、この演習室で育まれたと言って過言ではありません。いつしかクラス会が催される時には、美味しいお酒を飲みながら、この演習室での思い出話にも花を咲かせつつ、近況を語り合えればと願っております。

（環境・平成15年卒・工学研究科都市系専攻前博２回生）

★★　市大同窓会連合会からのご報告　★★

『大阪市立大学学友会（仮称）の創設に向けて』

現在、母校の大阪市立大学では、公立大学法人化法による大学改革を目指した論議が進められていますが、本年4月に法人化された国立大学では、同窓生と大学の結び付きをより一層強化しようとする動きが広まりつつあります。

市大同窓会連合会では、昨年3月から12月にかけて、長年の懸案であった「全市大同窓会の設立」について、小委員会による検討を重ねてこられました。

その結果、「現存の5部局同窓会の単なる統合ではない、全学の卒業生・在校生・教職員等を中心に構成される新しい大阪市大関係者の組織として“大阪市立大学学友会（仮称）”を創設する」と言う構想の素案が纏められました。

本年1月の同窓会連合会の役員会は、小委員会からの提案を審議し、下記の「大阪市立大学学友会（仮称）設立大綱5項目」を基本方針に決定されました。

（1）新しい組織名を、大学と学友の連携及び学友相互の絆をより強くしていくという意味合いを込めて「大阪市立大学学友会（仮称）」とする。

（2）組織の目的を「新しい大学と地域社会の発展への貢献及び学友のより豊かな人生設計への寄与」とする。

（3）その組織を“市大コミュニティ”づくりの構想の下、「現存の部局同窓会の単なる統合でなく、卒業生・在校生・教職員等を含む全学窓ネットワーク」とし、時代に即した新たな機能を付帯させていく。

（4）組織の編成・事業・運営等は、提案された「会則案」を骨子として更に細部を詰め、これを基本ルールとする。

（5）設立時期は、大阪市立大学の法人化への動向を視野に入れながら、平成17年頃を想定し、一連の準備作業を直ちに遅滞なく進めていく。

そして、小委員会に代わる「大阪市立大学学友会（仮称）設立準備委員会」の新設を決められました。

その学友会（仮称）設立準備委員会は、本年3月から7月上旬にかけて、「学友会（仮称）の会則（案）・財源問題・事業内容・設立趣意書（案）等について種々検討を重ねられ、7月の大阪市大部局長懇談会で大学執行部が出席者に説明される「学友会（仮称）の会則（案）及び設立趣意書（案）等」について、大学執行部と事前協議がなされました。

7月の同窓会連合会の役員会では、金児学長から「先日の部局長懇談会では反対は無かったが、既存組織との事業内容の調整の必要性が指摘された」とのご報告があり、設立準備委員会の中間報告に対しても、会員資格の明確化・入会者に対するインセンティブメリット・会費の徴収方法・設立時の寄付金等について論議されました。

9月の同窓会連合会の役員会では、金児学長の「学友会（仮称）に対する学内の認識を高めるために“学友会（仮称）設立相談会”を組織されること、及び10月中に大学側の必要な討議を終えて、11月上旬には“学友会（仮称）設立協議会”を開催したい」とのご報告を受けた後、設立準備委員会から提案の「学友会（仮称）の修正会則（案）・事業計画（案）・準備費用分担（案）・入会金の同窓会費との一元化徴収（案）」が“今後の設立協議会で問題点を検討して正式に決定されるための、現時点の同窓会側のまとめ”として一括了承されました。

10月上旬に学友会（仮称）設立準備委員会は、同窓会連合会側の検討修了との判断により閉会され、10月下旬に学友会（仮称）設立に向けての具体的な準備作業及び各種委員会の企画・調整等を任務とする「大阪市立大学学友会（仮称）設立準備室」が大学内に開設されました。この準備室には、①会費委員会（新入生徴収金の一元化・費用分担金を担当）、②学友会（仮称）設立記念募金準備会（募金目標達成の方法等の準備を担当）、及び③学友会（仮称）情報発信サービス準備会（生涯メールアドレス・情報発信サービスシステムを担当）が設置されています。

11月18日には、同窓会連合会と大学の委員が協同して学友会（仮称）の創設に向けた課題を検討する「学友会（仮称）設立協議会」の第1回目の会議が開催され、「来年1月末までに、大阪市立大学学友会（仮称）の事業・会則・会費徴収等の検討を深め、最終的な決定をする」予定になっています。

また、11月開催された学友会（仮称）設立準備室の第1回会費委員会では、「5部局同窓会の準備室費用分担額（貸付金）とその振込先・振込期日」が決定されました。

なお、学友会（仮称）設立準備室では、今後の大学委員との学友会（仮称）設立協議会を円滑に進めるため、11月27日、12月9日・18日に準備室運営会議が開催され、12月10日には第2回会費委員会が開催される予定になっています。

事務局年報（2003・12～2004・11）

2003年（平成15年）

12月：本年２回目の会費督促状を発送（２日）。2003年版会員名簿入荷（12日）。会報第19号の発送完了（18日）。

2004年（平成16年）

１月：新保・志野両監事の会計監査（13日）。第１回財務委員会で「特別基金有効利用のための運用方針」を検討（16日）。市大広報52号を学外の理事・評議員及び大学院生評議員に配布（19日）。第16期第３回理事会にて第15回評議員会の議案及び、第５回キャンパス交流会を審議・決定（21日）。

２月：杉本キャンパスにて第15回評議員会を開催、第16期初年度（2003年年度）の経過及び収支決算報告、第16期第２年度（2004年度）の理事会役員・事業計画・予算を決定。その後、第５回キャンパス交流会（講演会と懇親会）を開催（21日）。

３月：同窓会連合会の学友会設立準備委員会（当会からは田守・人見両理事）が発足、2004年度新入生への当会の案内・会則・会費払込み要請書等の配布を工学部学務係に依頼（４日）。第15回評議員会に欠席の理事・評議員に報告書を送付（12日）。工学部・工学研究科送別式に湊会長、貴志副会長及び理事有志が出席（25日）。

４月：同窓会連合会の役員・小委員合同会議で統一問題の意見交換（３日）。中央公会堂にて2004年度入学式（５日）。

５月：市大広報第53号を学外の理事・評議員及び大学院生評議員に配布（21日）。第２回財務委員会で「クロアチア国債の米国債への変更案を理事会に諮ること」を決定（25日）。工学研究科主催第12回大阪市大国際シンポジュウム後援資金を拠出（28日）。第113回市大ボート祭を祝うアドバルーンの掲揚（29、30日）。

６月：第16期第４回理事会で当年度の計画事業の進捗状況等を検討・第２回財務委員会の外貨運用方針を了承（８日）。

７月：第４回理事会報告を各理事に発送（６日）。第３回財務委員会で「外貨運用の具体的な進め方」を決定（10日）。本年第１回目の会費督促状を発送（22日）。

８月：市大広報第54号を学外理事・評議員及び大学院生理事に配布（５日）。工学部学術情報交流センターの夏季休館（13～17日）。第４回財務委員会で「米ドルMMF・米国債の購入基準価格等を決定（18日）。

９月：同窓会連合会の第３回ホームカミングデー実行委員会（当会からは中田副会長・建部理事）で行事内容・案内方法等を検討（８日）。第１回行事企画委員会で「第16回評議員会・同窓懇親パーティー2005」の日時・会場・ゲストスピイカー案等を検討（22日）。第16期第５回理事会で「学友会設立準備基金の分担、新入生の学友会入会金・部局同窓会費一括徴収及び第16回評議員会・同窓懇親パーティ2005」審議（28日）。本年の定年恩師に会報第20号への寄稿を依頼（３日）。

10月：第３回ホームカミングデーの案内状を約1500名の会員に発送（12日）。湊会長、東工学研究科長、学科主任、及び会員に会報第20号の原稿を依頼（16～20日）。第５回理事会の報告を各理事に発送（18日）。同窓会連合会の学友会設立準備室の発足会議（当会からは湊会長、中田・貴志両副会長、人見理事参加）開催（21日）。

11月：銀杏祭初日に第３回ホームカミングデー開催（３日）。大阪市立大学同窓会愛知支部総会に貴志副会長が出席（10日）。学友会設立準備室会議開催（11、27日）。会報第20号校正終了（26日）

（１）第16期第初年度（2003年１月～12月）収支決算報告

（イ）経常費収支決算表（円）

収	入	支	出
終身会費	6,930,000	会議費	190,862
預金利息	965	行事費	188,677
雑収入	7,000	会報	1,758,439
前期繰越	8,702,006	会員名簿	1,291,860
		協賛費	441,412
		渉外費	44,811
		通信費	247,431
		事務局費	2,782,373
		次期繰越	8,694,106
合計	15,639,971	合計	15,639,971

（ロ）借貸対照表（2003年12月末、円）

借	方	貸	方
振替口座	3,617,024	累計剰余金	8,702,006
普通預金	4,729,364	当年剰余金	△7,900
定期預金	47,264,207	特別基金	71,860,568
有価証券	24,944,079		
合計	80,554,674	合計	80,554,674

（２）第16期第２年度（2004年度１月～12月）理事会役員

会　長：湊　勝比古（土41）

副会長：中田　忠（機26）　山口南海夫（電44）　貴志　義昭（建41）

理　事：副松　晃（機26）　下田　隆二（機29）　人見　宗男（機31）
南斎　征夫（機39）　東　恒雄（機41）　宮本　万功（機43）
笠上　文男（機50）　栗政　幸一（電31）　建部　渉（電35）
矢野　孟彦（電36）　行藤　三男（電36）　南　繁行（電45）
串坂　徹（電55）　村治　雅文（電62）　津田　恒次（化29）
廣岡　孝一（化29）　福山　泰夫（化32）　山田文一郎（化修40）
三浦　洋三（化42）　大嶋　寛（化49）　坂内　幾男（建24）
大東　清四（建25）　都築　周（建29）　多胡　進（建34）
坂　壽二（建42）　赤﨑　弘平（建45）　山道　正男（建45）
谷口　徹郎（建59）　植木　正富（土24）　井上　保（土26）
吉村　憬（土32）　園田恵一郎（土36）　伊藤　和雄（土38）
小林　治俊（土45）　日野　泰雄（土50）　大島　昭彦（土55）
繁澤　孝（物32）　川上　一夫（物35）　田守　芳勝（物38）
増岡　俊夫（物38）　和倉　慎治（物45）　宇佐美　照夫（物46）

監　事：新保　市弘（電35）　志野　太一（物40）

（３）第16期第２年度（2004年１月～12月）事業計画

①会報第20号の12月上旬発行・配布。
②工学部・全市大行事及び事業への協力。
③会員相互の横断的交流・親睦の促進。
④第15回評議員会開催と第16回評議員会の企画。
⑤市大ホームページの当会ページの更新。
⑥特別基金の有効利用法の検討

（４）第16期第２年度経常費予算（円）

収	入	支	出
終身会費	6,060,000	会議費	200,000
預金利息	1,000	行事費	250,000
雑収入	18,000	会報	1,800,000
前期繰越	8,694,106	会員名簿	1,250,000
		協賛費	950,000
		渉外費	50,000
		通信費	250,000
		事務局費	2,775,000
		次期繰越	7,248,106
合計	14,773,106	合計	14,773,106

工学部の電話番号[06-6605-(下記番号)] (2004.10.1現在)

機械工学科		電気工学科		応用化学科		建築学科		土木工学科		応用物理学科	
野邑 奉弘	2663	南 繁行	2760	小槻 勉	2693	谷池 義人	2764	小林 治俊	2173	中山 正昭	2739
西村 伸也	2664	武智 誠次	2677	澤井圭二郎	2694	木内 龍彦	2706	角掛 久雄	2723	溝口 幸司	2174
伊與田浩志	2963	曽田 田人	2678	五百井正樹	2977	谷口 徹郎	2707	北田 俊行	2734	金 大貴	3087
東 恒雄	2666	高橋 秀也	2679	畠中 康夫	2979	坂 壽二	2708	山口 隆司	2765	中山 弘	3088
加藤 健司	2665	重田 和夫	2761	南 達哉	2980	谷口与史也	2709	松村 政秀	2735	福田 常男	2738
脇本 辰郎	2965	青笹 正夫	2680	有吉 欽吾	2791	那谷晴一郎	3076	高田 直俊	2724	細田 誠	2742
南齋 征夫	2667	草開 稔	2681	三浦 洋三	2798	西岡 利晃	2992	東田 淳	2725	菜嶋 茂喜	3089
佐藤 嘉洋	2670	田中 健司	2975	圓藤紀代司	2697	梅宮 典子	2710	大島 昭彦	2996	熊谷 寛	2879
川上 洋司	2668	松下 賢二	2792	米澤 義朗	2770	大倉 良司	2711	日野 泰雄	2730	小林 中	3030
脇坂 知行	2671	宮崎 大介	2877	辻 幸一	3080	杉山 茂一	2176	内田 敬	3099	中村 勝弘	2768
瀧山 武	2672	辻本 浩章	2685	米谷 紀嗣	2984	藤本 益美	2989	吉田 長裕	2731	寺井 章	2748
高田 洋吾	2970	村治 雅文	2976	松本 章一	2981	徳尾野 徹	2713	角野 昇八	3078	杉田 歩	2904
				小畠 誠也	2797	横山 俊祐	2199	鬼頭 宏明	3050		
						中谷 礼仁	2714	麓 隆行	2780		

情報工学科		生物応用科学科		知的材料工学科		環境都市工学科		共 通		事務室等	
濱 裕光	2772	井上 英夫	2782	澤田 吉裕	2660	赤﨑 弘平	2717	(応用数学)		学務係	2653
柳原 圭雄	2773	笠井 佐夫	2783	逢坂 勝彦	2962	嘉名 光市	2715	多羅間茂雄	2669	同	2651
鳥生 隆	2684	北村 昌也	3091	高坂 達郎	2182	中村 仁	2716	谷村 省吾	2747	学情サブセンター	2657
平井 誠	2683	大嶋 寛	2700	元木 信弥	2661	中尾 正喜	2993	鈴木 広隆	2712		
中島 重義	3096	東 雅之	3092	山崎 友裕	2181	西岡 真稔	2718				
辰巳 昭治	2688	五十嵐幸一	2699	大島 信生	2961	鍋島美奈子	2719	(機械工作室)			
上野 敦志	3081	玉垣 誠三	2695	橋本 敏	2673	矢持 進	2175	吉岡 真弥	2967		
岡 育生	2779	長崎 健	2696	A・ビノグラドフ	3049	重松 孝昌	2732				
阿多 信吾	2191	東 秀紀	2168	兼子 佳久	2179	森 信人	2733				
村田 正	2795	山内 清	2703	森 雄造	2743	山田 優	2727				
杉山 久佳	2796	田辺 利住	3094			貫上 佳則	2728				
辻岡 哲夫	2192	立花 亮	2702			西 元央	3048				
		荻野 健治	2799								
		立花 太郎	2167								

第16回評議員会のお知らせ

前略　評議員各位には当会のために、色々とご協力頂き誠に有り難うございます。

さて、**第16回評議員会**（平成17年評議員会）を、下記の通り開催致します。万障お繰り合わせの上、ご出席下さいますようお願い致します。

記

日　時：2005年（平成17年）2月25日(金)
午後5時30分～6時20分

会　場：新阪急ビル（12階）スカイルーム
（阪神百貨店南隣）

なお、万一ご欠席の場合は、後日お送り致します委任状を必ずご返送下さい。

編集後記

2004年は、夏季の記録的な高気温日の多発、前代未聞の風・水・土石の被害を残した強烈な台風の10回もの上陸、約10万人が避難された新潟県中越地方での震度5～7の直下型地震の頻発等、日本列島の潜在的脅威を再認識させられましたが、会員各位には大過はございませんでしたでしょうか。

さて、本号からは「主任教授による学科の近況」を従来のほぼ6割の字数に削減させて頂き、会員の短信やクラスだよりを増やすことになりましたので、振ってご投稿下さい。

なお、本年3月にご定年の6名の恩師には、例年通りご寄稿をお願い致しましたが、残念ながら、どの先生からもご寄稿頂けませんでした。

また、昨年来同窓会連合会によって検討されてきました、“大阪市大関係者の全学的組織としての「大阪市立大学学友会（仮称）」の創設”に向けた検討経過の概略が掲載されていますので、是非ご一読下さるようお願いします。

では、良いお年をお迎え下さい。　（N. Y. 生）

編集委員

○山口南海夫（電気・昭和44年卒）　南斎　征夫（機械・昭和39年卒）
△大嶋　寛（応化・昭和49年卒）　村治　雅文（電気・昭和62年卒）
谷口　徹朗（建築・昭和59年卒）　大島　昭彦（土木・昭和55年卒）
増岡　俊夫（応物・昭和38年卒）　人見　宗男（機械・昭和31年卒）
（但し、○：委員長、△：副委員長）

工学部同窓会の集い
同窓懇親パーティ２００５

来春は、当会々員相互の親睦を深めて同窓の絆を強めるための、“同窓懇親パーティー２００５”を、下記の通り開催致します。

特に当日には、平成13年以来、小松製作所㈱の代表取締役社長兼CEOとしてご活躍中の坂根正弘氏（昭和38年機械卒）にご講話頂くことになっております。

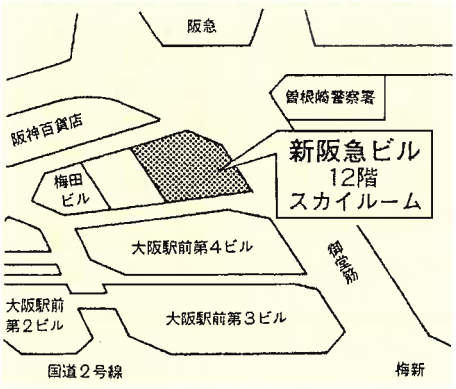
また、東恒雄工学研究科長兼工学部長や、定年恩師にも例年通りご臨席頂く予定です。市大の同期生や職域の同窓生等をお誘い合わせの上、是非ご参加下さい。

特に、好評のミニ・クラス会やミニ職域会としての参加は大歓迎です。

記

★日　時：2005年２月25日（金曜日）、午後６時30分～８時30分

★会　場：新阪急ビル（12階）“スカイルーム”
大阪市北区梅田１－12－39
（TEL：06－6345－4127）



★会　費：7000円（当日会場にて受付）

申込方法：(1)連絡事項：①氏名、②学科（専攻）名、
③卒業（修了）年、④ご住所（連絡先）
(2)方　　法：ハガキ、又はFAX（06－6605－2769）
(3)期　　日：2005年２月18日（金）

申 込 先：〒558-8585 大阪市住吉区杉本３－３－138
大阪市立大学工学部同窓会 事務局
（TEL：06－6607－8373）

〔桜花爛漫の春のキャンパス〕

〔木々が色づき始めた晩秋のキャンパス〕